

企画展示のご紹介

あき な むし
「秋の鳴く虫」



マツムシ



クツワムシ

- 期間：9/14 (土)～9/23 (月・振)
- 期間中の休館日：9/18 (水)
- 会場：こんちゅう館 昆虫ホール
- 内容：マツムシやクツワムシなど、秋に鳴く身近なコオロギ・キリギリスの仲間を展示します。

「ナナフシ展」



エダナナフシ

- 期間：10/5 (土)～11/4 (月・振)
- 期間中の休館日：なし
- 会場：こんちゅう館 がくしゅう室
- 内容：木の枝や葉にそっくりな形をしたナナフシを生体・標本で展示します。パネルで生態についても解説します。

こんちゅう館 News

みへんな主役!! 虫の館のスターたち ⑭

ユウレイヒレアシナナフシ *Extatosoma tiaratum*

ナナフシ目 ナナフシ科



たまご卵



れいようちゅう 1齢幼虫



成虫(メス)



成虫(オス)

※ 写真は実物大

こんちゅう館ウラ話 小さな昆虫の標本づくり



ヒメドロムシの仲間

スポイトでエタノールを垂らす

0.5mmのシャープペン芯

両面テープ

ウレタンフォーム

こんちゅう館では展示や自然史資料の収集のために、昆虫の標本をつくっています。標本をつくる時には、後から種を調べやすいよう、形を整えなければなりません。数ミリほどの小さな昆虫の標本をつくる場合、両面テープを使います。エタノールを1滴垂らし、粘着力が弱まっている間に形を整えてから乾かします。(久我)

オーストラリアに分布する大型のナナフシで、名前のおりに脚に魚のひれのようなひだがあります。大きさや形から展示映える上、丈夫で飼いやすいので昆虫館の常連となっています。

オスの成虫は体長約10 cmでほっそりした体に翅が発達し、飛ぶことができます。メスの成虫は体長約15 cmに達し、ナナフシとしては太い胴体です。翅は発達せず、飛べません。また、よく腹の先を上げて「サソリ」のようなポーズをとります。体や脚には棘が生え、飼育時に棘が刺さると痛いのです。卵は植物の種のような形で、メスの腹の先から「発射」されるように産卵されます。卵の殻は頑丈でケースの壁に当たっても簡単には割れません。昆虫館で飼育した場合、約6か月後に幼虫が孵化します(個体差はあります)。動きのおそい成虫にくらべ、生まれたばかりの1齢幼虫はアリのように素早く歩き回るため、エサ替えの時は気が抜けません。孵化後約4か月で成虫になります。セイヨウカナメモチの葉を与えて飼育していますが、孵化して間もない幼虫にはノイバラやコナラの葉も与えた方が食いつきやすく、生存率も高いようです。(松尾)

こんちゅう館 News 新シリーズ Vol.17 秋号 2024年9月1日

編集/発行 弘島市森林公園こんちゅう館

〒732-0036 広島市東区福田町字藤ケ丸 10173 番地
TEL (082)899-8964 FAX (082)899-8233 HP <http://www.hiro-kon.jp/>



イベント情報は
こちらから

しょくいんのおおむし
職員の推し虫

ヤママユ *Antheraea yamamai* (チョウ目 ヤママユガ科)

どんな虫?

夏から秋にかけて成虫がよく見られる、大きな蛾です。多い時期になると、コンビニや高速道路のパーキングエリア、自動販売機などの光に集まる様子がよく見られます。こんちゅう館のあかりにもよく飛んできます。



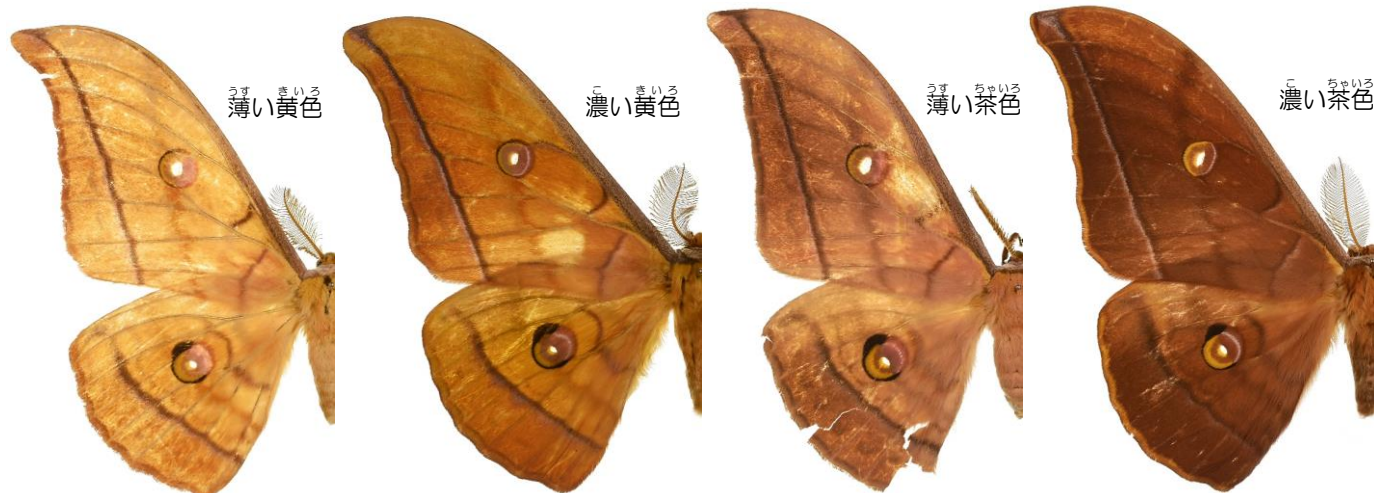
お押しポイント① モフモフ!

全体にモフモフした毛がはえています。触るととても心地よいですが、触りすぎると毛が抜けて舞い上がってしまいます。誤って吸い込むと咳が出てしまうので注意してください。ただし毒はありません。



じつぶつだい
実物大

お押しポイント② いろんな翅の色!



翅の色にいくつかの種類があり、色が黄色っぽいものや茶色っぽいもの、翅のふちに色がつくものなど、様々な色彩の個体があります。ちなみに私の好きな翅の色は、薄い黄色です。(内田)

こんちゅう館フォトギャラリー ～こんちゅう館周辺で見られる鳴く虫たち～

こんちゅう館の食草圃場や生垣、昆虫好物樹木園では、秋に様々な鳴く虫が見られます。鳴く虫には、それぞれに好きな環境があります。ここでは、こんちゅう館周辺で見られる鳴く虫を環境ごとに紹介します。(藤井)

食草栽培圃場や草地で見られる鳴く虫 (草原や畑で見られる鳴く虫)



こんちゅう館ふつじゅもくえん 昆虫好物樹木園や木の上で見られる鳴く虫 (樹上や林縁で見られる鳴く虫)

